

産 業 都 市 委 員 会 行 政 調 査 報 告 書

1 調査期間

平成25年10月8日（火）から10月10日（木）まで

2 調査先及び調査概要

（1）滋賀県長浜市

まちづくり施策について

「黒壁を中心としたまちづくり」

博物館都市構想の考え方に基づいた黒壁を中心としたまちづくりが始まるまでの経緯及び概要・課題等の調査・研究。

（2）滋賀県野洲市

産業振興施策について

「ものづくり経営交流センター」

野洲市ものづくり経営交流センターの概要及び事業等の調査・研究。

（3）兵庫県姫路市

観光振興施策について

「姫路市観光交流推進計画」

平成24年に策定された「姫路市観光交流推進計画」（第2次改訂版）の概要及び取組内容・課題等の調査・研究。

3 参加委員

委員長	山	本	亨
副委員長	高	橋	正 利
委員	加	藤	拓
委員	井	上	ノエミ
委員	西	村	孝 幸
委員	あ	べ	きみこ
委員	出	羽	邦 夫
委員	西		恭三郎

4 同行幹部職員

産業観光部参事 中 山 誠

5 調査概要

別紙のとおり

調査概要 【長浜市】

1 市の概要

長浜市は、滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接している。周囲は伊吹山系の山々と、ラムサール条約の登録湿地でもある琵琶湖に面しており、中央には琵琶湖に注ぐ姉川や高時川、余呉川等により形成された豊かな湖北平野と水鳥が集う湖岸風景が広がり、県内でも優れた自然景観を有している。

また、北國街道やこの街道と中山道を結ぶ最短経路であった北國脇往還沿道や、戦国時代を偲ばせる長浜城や小谷城跡、賤ヶ岳、姉川古戦場をはじめ、竹生島の宝厳寺、渡岸寺の国宝十一面観音をはじめとする数多くの観音が祀られる観音の里など、すぐれた歴史的遺産を有している。

この地域は、京阪神や中京、北陸の経済圏域の結節点としての位置にあり、京都市や名古屋市からはおよそ60キロメートル圏域、大阪市からはおよそ100キロメートル圏域にあり、JR北陸本線・湖西線や北陸自動車道を主な広域交通軸として、これらの経済圏域と利便性高く結びついている。さらに、平成18年10月にJR北陸本線・湖西線が直流化されたことにより、「琵琶湖環状線」として京阪神圏はもとより、北陸圏域への交通利便性が今後ますます高まるものと考えられる。

平成25年4月1日現在、人口は123,335人、面積は680.79平方キロメートルである。

(参考資料／長浜市ホームページ ほか)

2 調査事項

「まちづくり施策」について

長浜市は、博物館都市構想の考え方にに基づき黒壁を中心としたまちづくりを平成元年から進めており、空き店舗の減少とともに年間200万人以上の観光客が訪れるまちとなっている。また、伝統的建築様式の建物が連たんする景観を形成するために、店舗の外観改修事業に補助するなど、伝統的な街並み景観の維持・形成に努めている。

(1) 黒壁を中心としたまちづくり

ア 衰退する中心市街地

- ・市街地の郊外への拡散化、求められる都市全体の活性化策、伝統的な人口集積地域が衰退

イ 商店街再生のドラマの始まり

- ・市制40周年、博物館都市構想の策定

ウ まちづくりの3つの流れ

- ・市・商工会議所・商店街、ながはま21市民会議、株式会社黒壁

エ 黒壁の誕生（昭和63年4月）

- ・第3セクターでの設立
- ・3つのコンセプトによる経営（歴史性、文化芸術性、国際性）
- ・事業展開（ガラス）

大型店が真似できないこと、地域産業を圧迫しない、3つのコンセプトを満たす

オ 黒壁の発展期（平成3年～10年ごろ）

カ 出店数と空き店舗及び売上高（営業利益）と来訪者数の推移

キ 新たな課題

- ・賑わいの維持、量から質への転換、居住者の視点からのまちづくり

3 主な質疑応答等

Q：事業を展開していく中で空き店舗が年々減少して、平成元年の 65 軒から平成 10 年には 20 軒になりました。新しく空き店舗に入って来られる方は新規創業なのか、それとも既存の店舗が移転しているのか、その辺の状況はどうなっているのでしょうか。

A：10 軒程度は 2 代目、3 代目の方が帰って来てお店を継いでいます。残りの 20 軒から 30 軒については、黒壁のまちづくりが発展していったお客さんが増えているので、ビジネスチャンスと捉えて入ってきています。一番のメイン通りである大手門通り商店街などは、決して地元の商店だけが改修して発展しているのではなくて、他の地域からテナントとして入ってきているお店もあります。

Q：そこで扱う商品はどのような種類が多いのでしょうか。観光客が多いのでおみやげ品などが多いのでしょうか。

A：観光バスで観光客がたくさん来ますが、滞在時間は 1 時間から 1 時間半です。その間にお客さんはおみやげを求めることになりますので、お菓子類のお店が多いです。ただ、ここ数年はガラス細工の体験をしていただくお店も出ていて、二分化している状況です。いずれにしても、観光客を相手にしたお店が多いです。

Q：観光客のうち、外国人の割合はどのぐらいですか。

A：アジアを中心とする外国人の割合は少しずつ増えています。また、季節ごとにさまざまなイベントを行っていますし、J R の直流通化によって近畿圏からの日帰りの観光客が増えています。

Q：新たな課題として 3 点挙がっていて、二つ目に量から質への転換とあります。昭和 59 年からのにぎわいの街づくり事業をはじめとして、いくつかの事業を展開されていますが、今後の新たな取組をお聞かせ願いたい。

また、滞在型観光については本区も同じ問題を抱えていて、ホテル不足等いろいろな課題があります。イベントを行えばホテルは満室になるとは思いますが、それ以外のときなど、滞在型を目指す考え方はどうなっているのでしょうか。

A：非常に難しいところで、にぎわいがイベントのときだけということではいけません。黒壁の社長が今年 1 月に変わって、その社長のコンセプトの中にもありますが、売れるものはまだまだたくさんある。長浜市だけではなく、周辺地と連携して地場のものを売っていく。それについて黒壁を使って、まちへの集客につなげていく。あるいは、農業体験もある。市内にはロイヤルホテルがありますが、グループの中でベストスリーの稼働率と集客数です。これは非常に大きな財産ですので、連携しながら滞在型を目指したい。例えば修学旅行や学生の体験授業についても充実していこうと考えています。それは黒壁を中心に商業ベースでの連携を進めて行きたいと思います。まだ、空き店舗もございますし、逆に空き店舗をビジネスチャンスと捉えて来る人もいます。そこで地場の商品展開をしていく。にぎわいについても、新たに秋にジャズをテーマにしたイベントを考えています。世代についてもターゲットをしばりながら、京阪神、中京地域の日帰り圏域からのお客さんを呼ぶために努力していきたいと考えています。

Q：滞在時間は比較的短いというお話でしたが、女性の視点から質問いたします。乳幼児をお連れの方の授乳スペースや、高齢者のための休憩所、トイレなどの対応はどのようになっているのでしょうか。

A：まだまだ充実が必要だと考えています。現在つくっている第二次中心市街地活性化計画では定住性確保のために、ただいま指摘のあったことなどの充実も必要だと考えています。

Q：まちづくりというものについて、主に産業、商業、観光の視点からお話を伺いましたが、産業と都市計画のセクションの横のつながりはどのようになっているのでしょうか。

A：中心市街地対策を所管していますのは産業経済部です。都市計画は事業を中心として行って

いますが、補助金などについては都市計画部門との役割分担はあります。コーディネートは産業経済部が行っています。

Q：売上高と来訪者数の推移ですが、来訪者数が減っていないのに営業利益が下がっているようにも見えますが、どのような事情なのでしょう。また、本区にも古い商店街がありますが、新しく入って来られる方々との共生について、どのような歴史があって、どのように融合していったのでしょうか。

A：大河ドラマのロケ地として、来年も含めると4作使っていただいています。それだけ素材があるということです。一気に売上げと来訪者数が伸びますが、ドラマが終了した2、3年後は非常に厳しい状況です。2年前のドラマが最後の大きい山でしたが、そのようなタイミングをうまく捉えていきたいと考えています。ですから、売上高がマイナスになっているときもあります。また、年が経つごとにイベントなどを通して溶け込んでいますが、大きな壁になっているのは曳山まつりです。祭りの組織が町内会を離れたものになっています。少しずつお付き合いの中でご協力いただいているところでございます。

いずれにしても、キーワードは商店街のリーダーのあり方です。ある商店街は空き店舗が全くありません。そのリーダーはすぐに次の経営者を探してきます。個店ではなく商店街に対する支援を行政としてやっていきたいと考えています。もう一つは個店の経営理念の強化をやっていきたいと思います。若手経営者を育てる取組をしなければ、商店街の未来は見えてこないだろうと思います。今後のテーマとしては、個店対策と商店街としての空き店舗対策です。もう一つは中心市街地の地域が広くなりましたので、商店街形成についての連携を模索しながら、広域化された商業関係者が連携できるようにしたいと考えています。

以上

調査概要 【野洲市】

1 市の概要

野洲市は、平成 16 年 10 月に旧中主町と旧野洲町が合併し誕生した都市で、滋賀県の南部の湖南地域に位置しており、西は守山市、栗東市、南は湖南市、東は近江八幡市、竜王町に接し、東西 10.9km、南北 18.3km に広がり、面積は 80.15k m²である。

大阪市まで約 65km（約 60 分）、京都市まで約 25km（約 30 分）の距離にあり、JR 東海道線（琵琶湖線・京都線）で連絡され、京阪神への通勤者も多く、平成 22 年の国勢調査に基づく人口は 49,955 人である。

地形は、東南部の三上山から妙光寺山、鏡山等によって形成する山地部と、山地から琵琶湖に向かって緩やかに広がる平坦地に分けられる。山地部には三上・田上・信楽県立自然公園、希望が丘文化公園、近江富士花緑公園等が立地し、自然環境とレクリエーションに親しめる施設が立地している。平坦地は野洲川・日野川等で形成された沖積平野で野洲川右岸の扇状地には市街地が形成され、平坦な三角州は農地として利用されている。

さらには、多数の銅鐸が出土し、「銅鐸のまち」として知られ、他にも古墳群や神社仏閣など豊富な歴史・文化遺産に恵まれたまちでもある。

（参考資料／議会要覧）

2 調査事項

「産業振興施策」について

野洲市は、東京大学ものづくり経営研究センターで養成された「ものづくりインストラクター」の協力を得て、企業の経営改善支援を実施するなど、シニアがもつ高度な知識・技能を社会の財産として捉え、こうした人材を活用して企業の生産力・収益力の向上につなげて、地域産業の底上げを目指している。

（1）野洲市ものづくり経営交流センター

ア 野洲市の取組

・野洲市地域産業活性化計画

イ 野洲市と東大ものづくり経営研究センターとの関係

ウ 野洲市ものづくり経営交流センターの設立

（ア）理念

- ・地域で光り輝く人材の育成のための支援と協力
- ・地域中小企業の活性化のための支援と協力
- ・中小企業のグローバル市場へのあくなき挑戦に対する支援と協力

エ 経営交流センター来訪者と予算

（ア）来訪者（2012年） 視察66名、協議・相談等121名

（イ）予算（平成25年度） 9,644千円

オ 野洲・ものづくりインストラクター養成スクールの開講

カ 現場改善指導の実践

キ その他の経営交流センターの仕事

3 主な質疑応答等

Q：野洲市の産業構造はどのようになっているのでしょうか。

A：中小企業数は極端に少ないです。もともとは農業中心でしたが、大企業が来たことで産業が芽生えました。

Q：インストラクターとして育った人材はどのようなところで働いているのでしょうか。

A：多くは市内の企業に行っていただいています。市外の中小企業に行く場合もあります。その場合は実費をいただいています。国の補助金があるので実施していますが、なくなったときに果たしてこのような事業を市として実施するのかという議論があります。しかし、役所しか企業に立ち入った話ではできません。民間にはできません。

Q：外国人のインストラクターはいますか。

A：いません。人口5万人ですが、外国籍は200人ぐらいでとても少ないです。

Q：インストラクターは何を教えているのでしょうか。

A：企業はもうけなければいけません。仕事の見直しや商品開発に当たってマーケティングが必要です。5年、10年後にどのように企業が変わっていくのか。何が一番もうかるのかといったところです。

Q：当初は戦略的ではなかったというお話がありましたが、そこから事業を進められて、しっかり大学側とタッグを組んで取り組んで来られました。そこにいい環境が育ったからだと思いますが、その辺はどのように信頼関係が醸成されたのでしょうか。

A：人だと思います。たまたま東京大学と縁がありました。これまで企業の誘致はしましたが、ソフト面で支えるものがありませんでした。大手企業だけを目指していいのかということがありまして、中小企業数は少ないと言ってもないがしろにはできません。隣のまちに立命館大学があって、産学連携などチャンスがあればとは思っていました。大学、企業、市で構成する研究会が終わると懇親会などをしますが、目指しているところは日本をよくしたいということです。特に企業からもたくさん研究会に人が来ていて、自分の持っているものを次の世代につなげていきたいということでした。それはお金ではありません。この気持ちを大切にしたいということで、大学側も気に入っていました。当面はそこを何とかしたいと思っていました。その部分について話しをしたら、規模が大きい県ではなくて5万人ぐらいのまちで実証実験をしたらということになりました。

Q：ものづくりの人材育成事業については、ほぼ毎月、目標を達成されているようです。手を挙げてくる事業者は4、5社あるようですが、目標に対する推移、又はギャップというのはどうなっているのでしょうか。

A：中小企業の人たちにたくさん来てほしいのですが、忙しくてなかなか来られません。そこには行くことができない理由があります。今年、市内の中小零細企業の方が参加していますが、ある経営者の方が息子に会社を継がしたいので、営業の仕方、お酒の飲み方を教えたいと言っていました。これはとてもいいんです。そういう人に来てほしいんです。お店をたたもうか迷っている人の息子さんが来てもしんどいですが、ネットワークをつなぐ事ができますから、そのような人に来てもらいたいと思っています。先ほど、産学官金と言いましたが、中小零細企業は担保がなければお金を借りることが出来ません。そうすると倒産してしまう。そのときに、我々と一緒に銀行に行くんですが、担保ではなくて能力でお金を貸すことはできないのかと銀行に言っています。すばらしい技術があるのに仕事の仕方が分からないだけなんです。能力でお金を貸してほしいと言えるのは役所だけです。

以上

調査概要 【姫路市】

1 市の概要

姫路市は明治 22 年の市制施行以来、数次にわたり周辺地域を編入して市域を拡大するとともに、戦後は昭和 21 年にラモート合併により新生姫路市が誕生し、商工業都市として発展してきた。

平成 8 年 4 月に中核市に移行し、平成 18 年 3 月の家島町、夢前町、香寺町及び安富町との合併で、人口 53 万人余りに達し、播磨地域の中核都市としてゆるぎない地位を占めている。

市域面積は 534 平方キロメートルで兵庫県南部のほぼ中央に位置し、山陽自動車道、中国自動車道及び国道 2 号をはじめとした主要国道や広域幹線道路が整備され、鉄道網は J R 山陽新幹線・山陽本線・播但線・姫新線、山陽電鉄が東、西、北方面と繋がる交通の要衝となっている。一方、海上交通も家島諸島への定期航路や国内外の貨物航路など姫路市を中心としたネットワークが形成されている。

地勢は、北部から山岳、丘陵、平野、島しょであり、市川、夢前川、揖保川などの河川が北から南に流れている。また、北部の雪彦峰山県立自然公園や南部の瀬戸内海国立公園をはじめ多様な自然資源があり、これらを生かした観光とともに、自然豊かな生活環境にも恵まれている。

また、平成 5 年に、わが国初の世界文化遺産に指定された国宝・姫路城やハリウッド映画のロケ地ともなった書写山圓教寺などの歴史的建造物や貴重な文化遺産も数多く有している。

(参考／議会要覧)

2 調査事項

「観光振興施策」について

姫路市は、「国際観光都市・姫路」の構築を掲げ、平成 24 年に「姫路市観光交流推進計画」(第 2 次改訂版)を策定し、「来てよかったと真に満足していただけるもてなしの都市・姫路」及び「1,000 万人集客都市・姫路」の実現とさらなる拡大を目標としている。

(1) 姫路市観光交流推進計画

ア 経緯

- ・平成 12 年 姫路市総合計画を策定し、「国際観光都市 姫路」の構築を掲げる。
- ・平成 14 年 姫路市総合計画の内容を踏まえた、姫路市観光基本計画を策定
- ・平成 18 年 観光基本計画を受け、観光交流推進計画を策定

イ 目標

『1,000 万人集客都市「ひめじ」の実現』

『「来てよかった」と真に満足していただけるもてなしの都市「ひめじ」の実現』

ウ 具体的な取組

姫路城を活かした観光まちづくりの推進、「食」や「土産物」などの地域名産品の創造、P R (食の魅力発信) など、観光とまちづくりの観点から総合的に取り組んでいる。

エ 課題

平成 21 年 3 月に新しい姫路市総合計画を策定。国際観光・コンベンション都市の実現に加えホスピタリティや回遊性の向上など新しい方針を示し、また、平成 27 年度には姫路城大天守の修理工事や姫路駅前周辺整備事業が完了するため、将来を見据えた新たな戦略を打ち出した観光基本計画の見直しを検討するとともに、観光交流推進計画の改訂を行う。

3 主な質疑応答等

Q：観光客の年齢層などはどうなっていますか。

A：姫路市の観光の8割は姫路城でして、姫路城を好まれる年齢層は高齢者が多く、性別は男性が多いです。現在、姫路城を改修しておりますが、常時、見学が出来るようになっています。世界遺産の改修の様子を見られるのは全国的にもあまり例がありませんので、修学旅行生の誘客に努めています。したがって、修学旅行生や有識者の方の見学が増えております。年齢別の統計はとっておりません。

Q：滞在型ではなく通過型の観光と伺いましたが、宿泊施設はベッド数でどのぐらいになるのでしょうか。修学旅行生も宿泊しないのですか。

A：手元に資料がありませんが、姫路市の宿泊施設はビジネスホテルが多いために、修学旅行生の団体を受け入れられるところが少ないのです。大体が神戸、大阪に泊まって姫路城を見て、また次のどこかに行くというパターンが多いです。

Q：昨年5月に東京スカイツリーが開業し、スカイツリータウンのエリアの中だけでも、昨年1年間で約5千万人が訪れています。本区としては東京スカイツリーに来たお客さんに、いかに区内を回遊していただくかということが重要になっています。昨日、姫路駅の観光案内所を拝見させていただきました。まち歩き観光のパンフレットが十数種類あったり、あるいは循環バス、体験型ツアーのチラシもありました。いかに姫路市内に滞在していただくかということが大事だということですが、本区も同じです。観光戦略の基本というのは、例えば、まち歩き観光、姫路城を拠点にいろいろなところを回遊していただく、2時間ではなくて、例えば半日、1日ということだと思います。いかに姫路城と拠点として姫路市内を回っていただくかということについての戦略について伺います。

A：現在、姫路城が改修工事中ですが、市内には姫路城のほかにも見るところがあります。それを打ち出すためには、まずはまち歩きです。その地区の方が主体となってイベントを開いていただく。そこで市はチラシを作ったり、PRをしたり、必要な物資の手配をしたりしてまちが活性化するような、まちなか歩きの取組を行っています。また、姫路市のもう一つの観光名所として書写山圓教寺があります。ここは、映画やテレビのロケでよく使われています。書写山周辺には温泉もあります。ですから温泉と書写山圓教寺周辺の施設を含めたパンフレットを作成してPRしています。そして、平成18年3月に周辺の4つの町が姫路市に編入いたしました。それによりまして、家島町、海や夢前町・安富町の山が加わりました。ですから山や海の幸、ものづくり体験のパンフレットを作っております。このように体験や、新鮮な山や海の幸などの食も含めた観光PRを行っています。姫路市の宿泊施設はビジネス型が多いので宿泊を伴う観光というよりも、滞在時間を少しでも延ばしてもらうような取組を現在始めております。

Q：神戸市は交通の便がいいので、そのようなところとセットにして観光される方が多い。そうすると姫路市での滞在が短い。いかに滞在時間を延ばすかというところに力をいれているということですね。

A：神戸市や明石市とも連携を組んでいます。

Q：姫路城の改修に伴って観光客が半減しているということですが、これまでで最も多い観光客数はいつ、どのぐらいですか。また、来年度NHKの大河ドラマで黒田官兵衛が始まります。平成20年から誘致に向けた活動をされたそうですが、その辺についてどのように始められたのか伺います。

A：平成20年に1千万人を超えて、これが最高の観光客数でございます。その後、平成21年から姫路城の改修工事が始まりまして、平成22年には見学もできないということで、集客数が三分の一に落ち込みました。一番多かった1千万人のときをもう一度取り戻そうというこ

とを目標にしております。黒田官兵衛は黒田サミットとして中津市や福岡市などのゆかりのある都市と話し合いをしておりましたが、もともとあった民間の黒田武士顕彰会の方とも一緒に平成 21 年から NHK の会長に毎年要望書を出しておりました。後で聞いた話ですが、そのように民間も黒田官兵衛について研究している。そして、ゆかりの都市とも連携して黒田官兵衛のドラマの誘致に取り組んでいるということで、今回、黒田官兵衛が選ばれたと聞いております。やはり、民間の力が大きいと思います。ゆかりの地が市内にたくさんございまして、その自治会や歴史保存会などが自分の地域の黒田官兵衛にまつわる PR、また、まち歩きのボランティアガイドなども行っておりますので、各地域の人たちも積極的に活動していただいています。それも評価されたうちの一つです。

Q：国際観光プロモーションはどのように取り組んでいますか。

A：市のレベルでインバウンドに取り組むには規模が小さいので、日本政府観光局（J N T O）に負担金を支払って PR 活動を行っていただいております。外国語のパンフレットを作ったり、4 か国語の標記で案内板を作っております。また、姫路駅の観光案内所のスタッフについては、全員が英語対応可能となっております。昨年度、観光庁が外国人観光案内所の認定を新しく始めまして、そのカテゴリーⅡの認定をいただいております。カテゴリーⅡとは常時英語対応可能なスタッフがいること、自分のところの地域だけではなく広域的な観光案内ができるということが条件になっています。それをクリアして認定をいただきました。

Q：外国人観光客はどの国が多いですか。

A：一番多いのは台湾、韓国です。また、ヨーロッパから来られた方が姫路城を好まれます。

Q：滞在型観光を目指す上で宿泊施設はビジネス型が多いということでした。「食」などがキーワードになってくると思いますが、PR はどのようにされているのでしょうか。また、書写山は遠いですが、ロープウェーもあってかなり幻想的な場所です。姫路城に次ぐ観光スポットとして育て上げていくことが大事だと思いますが、その辺について伺います。

A：食に関しては、市議会でもよく指摘があります。姫路の食といえば「姫路おでん」がありますが、2 年前に B－1 グランプリが姫路で開催されたときには、4 日間で 70 万人が訪れました。また、毎年、食文化協会がイベントを行っておりまして、市はそこに助成しています。市では地元で採れた食材を使ったレシピやおみやげのパンフレットを作って PR しております。書写山周辺の観光ですが、ロープウェーの売上は市の収入にもなりますので、そこにも力を入れております。

さらに、年 2 回ですが、圓教寺でゴールデンウィークに新緑まつり、10 月にもみじ祭りと呼ばれるイベントを行っておりまして、圓教寺の方にもご協力をいただいております。そのときに周辺の観光施設にもご協力をいただいて、何らかのイベントを行っていただいております。そして、地域にある温泉施設も非常に協力的で、様々なパンフレットを置いていただいております。書写山を訪れる観光客は減っておりますが、最近、山ガールと言われる若い女性がいっぱいいますので、そういった方にターゲットをしばったパンフレットを作ったりしています。様々な年齢層を意識してターゲットを変えて PR しております。

Q：本区も回遊性が問題になっております。姫路市も 1 千万人の観光客が来た年もあれば三分の一に落ち込んだ年もある。経済的な効果も含めてどのように考えていらっしゃいますか。

A：今までは姫路城にお客さんが来て、お店にも入ってくれるという雰囲気でした。それが姫路城の改修工事が始まって、観光客が減ってこれは危ないと商店街にも危機感がやっと芽生えてきました。商店街としてどのようにしたらいいのかということで、活性化に向けた協議会をつくって、イベントなどを行っています。改修工事が終わった後の観光施策として、ビッグデータを活用したいと考えています。今、姫路市は周りからこう思われているんだというような現

状をデータ化して、それを商店街やホテルに公開して、これから自分たちがどのように取り組んでいったらいいのか参考にできるように、今年度、来年度にかけて取り組んでいこうと計画しています。改修工事が終わったら通常の観光に戻ってしまいますので、商工会の方たちに問題点を自覚していただけるようなデータづくりを考えています。

Q：NHKの大河ドラマも追い風になるのではないですか。

A：平成26年1月15日に姫路城大天守修理見学施設「天空の白鷺」が閉館して、1年かけて施設を解体していきます。その間は大天守には入れません。その間の誘客をどうするのかということを考えているときに、大河ドラマの話がありました。そして、「天空の白鷺」が閉館するのと同時に、「大河ドラマ館」が1月12日にオープンします。観光客は来ていただけるのかなと思っていますが、大河ドラマは一過性のものです。昨年放映されました平清盛は神戸が舞台でした。「清盛館」の方がおっしゃっていましたが、「清盛館」目当てに来られた新しい客層をターゲットとして、これから観光施策を練っていかねばならないということでした。したがって、大河ドラマをきっかけにこれまで姫路市に興味がなかった人も訪れていただくような施策の展開を考えていきたいと思います。

Q：本区は区だけではなくて、観光協会と車の両輪のような形で施策を展開しています。区では個別のお店の紹介などできませんが、民間の力をうまく使って観光協会と一緒に対応しています。姫路市は姫路観光コンベンションビューローがありますが、観光案内所などの運営はコンベンションビューローが行っているのでしょうか。

A：観光案内所は市が運営しておりまして、コンベンションビューローに委託しております。1千万円ほどの経費でほとんどが人件費です。パンフレットは市が作成するものとコンベンションビューローが作成するものがあります。市は観光施設を紹介するもの、コンベンションビューローは「食」を中心に紹介するパンフレットを作成しております。

Q：城周辺観光ループバスについて伺いたしますが、目的は観光向けということでしょうか。

A：姫路城の周辺施設を回るバスで基本は観光向けですが、料金が安いので日常生活で使われている方もおります。

Q：当初、バスの運行計画を立てたときの乗客数の想定との差はありますか。

A：これだけの車社会ですので、車で観光に来られる方は多いです。当初の想定との差は分かりませんが、バスの運営は神姫バスに委託しております。同じルートに神姫バスの路線もありますが、神姫バスより料金の安い区間はループバスを使う方が多いです。今のところは観光客の交通手段として使っていておりまして、観光客の多い繁忙期には高い乗車率になっています。

Q：運行間隔はどのぐらいですか。また、双方向の運行ですか。

A：15分に一本です。一周が10分です。道路の混雑状況によっては12、3分かかります。運行については途中で一方通行がありますので、片道の運行です。

以上